

還	曆
新	人
農	業
者	手
帳	帳



平成27年度新規就農者

遊佐宏文

一、畑が「道場」

平成二十七年「年末」に農業者となり、翌二十八年度の「春」には初収穫となるアスパラに期待していました。購入した農地の一角にアスパラ畑があったのです。三月はじめ、柄の部分に定規のついたアスパラ鎌を妻の分も購入して「初収穫はアスパラだ。さあ、伸びてこい!!」とばかりに待ち構えていたのですが、結果は散々：鉛筆のような細いアスパラばかり：消費者に買ってもらえるような品質ではなかったのです。自分で手掛けていなかった畑に期待していた私が浅はかでした。そんなある時、ある方から力キ殻石灰をやったから良くなるよとのアドバイスをいただいたこともあって、見込みのありそうな畑の三分の一を残してそのア



▲空飛ぶ南瓜も道場での取り組みのひとつ

JAいしかり

2018年12月号 Vol.357 TEL: (0133) 66-3321

2018年12月11日発行 FAX: (0133) 66-3131

発行/石狩市農業協同組合 〒061-3361 北海道石狩市八幡2丁目332-11



二、地産地消に役立ちたい

様子を見ながらアスパラの倒伏防止の柵を作ってみました。肥料をやってみたり、冬前に枯れた枝を切り払ってみたりなどと、畑の語りかけにじっくりと取り組む日々のはじまりでした。畑は、自分の取り組みという問いかけに対し野菜の出来という形で答えてくれます。残念ながらこれまで期待通りの答えをもらったことはありません。何かうまくいっても別の何かに躓いています。このアスパラ畑も然りです。更に上を目指せと道場に言われているのだと自分自身に言い聞かせ、日々精進するしかありません。



▲農業者となり最初に購入したアスパラ鎌

地産地消。最近ではすっかり定着した感じですが、百年ほど前までは世界中がそうだったといっても過言ではないでしょう。近年見直されたにすぎない言葉なのです。大航海時代以来地球上の富が船舶や鉄道更には航空機で運搬されるようになりました。子供のころ、ピフテキといえどアメリカの富の象徴のような料理だったやに記憶しています。最近では安価な牛肉をいつでも食することが

三、野菜ソムリエの妻から一言

できるようになりましたが、生鮮野菜は日持ちしないこともあり時に牛肉より割高になることさえあります。フードマイルのなかった野菜であれば更に輸送代金が増算されるので、冬季間に野菜の生産に制限のある北海道では益々割高となるわけですね。通年栽培できる野菜農家の増加こそが地産地消に必要です。一方「葉酸」の摂取が健康長寿の必須要件ということがテレビなどで大きな話題となり数年が経過しました。冷凍肉や冷凍魚などでは補えないミネラルとビタミン、特に葉酸が豊富で新鮮な地元野菜を食べ続けてもらうことが、地域の消費者の健康長寿に役立つと信じて疑いません。JAいしかり地物市場とれのさと出荷者協議会の一員として、通年栽培を通じ、地産地消に微力ながら尽力する所存です。



▲『ジュニア野菜ソムリエとして頑張ります』

農業者となる前はスーパーに10円、いえ5円でも安い野菜を求めて行っていました。しかし野菜を生産して分かったのですが規格外品いわゆるハネ品がかなり発生し、自動的に我が家の食材となります。いまや冷蔵庫は野菜で一杯：料理するのが大変ですが、食卓は色とりどりの野菜料理で豪華になりました。

四、最後に

日本最大の直売所・福岡県の「伊都菜彩」をはじめ、機会あるごとに各地の直売所を見てきました。我が「これのさ」とは小さいながらも活気があって、生産者の顔々が間近に見える、とってもいい直売所であると思います。本当ですよ。

自衛隊員として37年間勤務しましたので、農業者としては一年上回る38年間を営農したいと考えています。あと36年です。実現すれば96歳。私が80歳を迎える20年後にはノーベル賞受賞者山中伸弥教授のIPS細胞によって死ねない体になっているはずだ、というのが大雑把な予想ですが、どうなるでしょう?? 防大生のころに定年退官する自分を想像できなかったのと同じように、四半世紀以上先のことは分かりません。しかしながら、故郷の大地で太陽からの光を野菜という恵みに換えて消費者の元に届け続けたいと思っています。

最後に、ド・素人農家である「還暦おやじ」のつぶやきに一年間関心を寄せていただき、誠にありがとうございました。(了)

(平成三十年十一月十日記)